

分担研究報告書

4. 働く人の健康意識に関するアンケート調査

研究分担者 須賀 万智

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 教授

研究協力者 山内 貴史

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 准教授

研究協力者 島崎 崇史

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 講師

令和7年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

働く人の健康意識に関するアンケート調査

研究分担者 須賀 万智 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 教授
研究協力者 山内 貴史 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 准教授
研究協力者 島崎 崇史 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座 講師

研究要旨

【目的】働く人にがん検診を正しく受けてもらう方策を探るため、「働く人の健康意識に関するアンケート調査」第2弾を行い、がん検診の受診対象の自覚、検診情報とのタッチポイントを調べ、検診情報の見聞きが受診意図に与える影響を検討した。

【方法】調査会社の登録モニターから25～64歳有職者を性10歳階級別250名ずつ募集し、2000名から回答を得た。

【結果】40-64歳男女・25-39歳女性はマニュアル上の対象であるにも関わらず、49%ががん検診の案内状を受け取っていないと回答し、34%が受診対象と認識していなかった。一方、25-39歳男性はいずれのがん検診も推奨されていないが、35.8%が受診対象と認識し、14%は受診経験があった。多重ロジスティック回帰分析において、検診情報を見聞きしたことがある者のほうが態度、主観的規範、コントロール感が良好であり、受診意図が高かった。

【結論】働く人にがん検診を正しく受けてもらうには、働く人を含めた一般市民に向けてがん検診に関する情報発信を強化し、検診情報とのタッチポイントを増やす一方、企業や保険者に向けて本来あるべきがん検診を促す啓発活動を根気よく継続していく必要がある。

A. 研究目的

職域におけるがん検診は、保険者や事業者が任意で提供するか、人間ドックの一部として実施される。一般健康診断と違い、法的根拠が無いため、働く人が義務として受けるものではない。しかし、早期発見により疾病負担を最小限に抑えるため、職域・地域いずれかでがん検診を受けるように促すことは重要である。

その一方、職域におけるがん検診は、国が推奨するがん検診[1]とは異なり、比較的若年から提供されることが少なくない。がん検診は利益と不利益のバランスに基づき対象年齢と受診間隔が定められ[2]、「職域におけるがん検診に関するマニュアル」として公表されている[3]。しかし、2023年度に健康保険組合を対象に実施した「職域におけるがん検診に関するアンケート調査」によれば、マニュアルどおりに実施しているところはわずかであった。

昨(2024)年度は、働く人にがん検診を“促す”方策を探るため、「働く人の健康意識に関するアンケート調査」を行い、がん検診の受診意図に関わる心理学的要因を検討した。本(2025)年度は、働く人にがん検診を“正しく受けてもらう”方策

を探るため、「働く人の健康意識に関するアンケート調査」第2弾を行い、がん検診の受診対象の自覚、検診情報とのタッチポイントを調べ、検診情報を見聞きが受診意図に与える影響を検討した。

B. 研究方法

「働く人の健康意識に関するアンケート調査」第2弾は、クロス・マーケティング株式会社に委託し、2025年11月20日にインターネット上で実施した。調査対象は、同社の登録モニターから25～64歳有職者を性10歳階級別250名ずつ募集し、2000名から回答を得た。

調査項目は、がん検診の受診対象の自覚、受診経験、検診情報とのタッチポイント（がん検診の案内状を受け取ったことがあるか、検診情報を見聞きしたことがあるか、検診情報を自ら調べたことがあるか）、計画的行動理論[4]に基づくがん検診の態度、主観的規範、コントロール感、受診意図を尋ねた。

統計解析はSAS 9.4を使用し、有意水準を5%とした。各項目の割合は χ^2 検定で比較した。がん検診の態度、主観的規範、コントロール感、受

診意図と検診情報の見聞きとの関係は多重ロジスティック回帰モデルを用いて性、婚姻、教育、職業、年収、健康状態、がん患者との接点を調整したオッズ比 OR と 95%信頼区間 CI を計算した。

(倫理面への配慮)

本研究は東京慈恵会医科大学の倫理委員会の審査承認 (37-304(12948)) を受けて行われた。

C. 研究結果

表 1 に回答者の基本属性を示した。勤務先の規模、医療保険の種類は概ね偏りなく含まれた。

表 2 にがん検診の自覚と経験について示した。受診対象の自覚は、マニュアル上の対象である 40-64 歳男女・25-39 歳女性で 65.9% (1096/1662 名) に留まり、一方、マニュアル上の対象でない 25-39 歳男性で 35.8% (121/338 名) に上った。男性よりも女性で年齢が高いほど多かった。

受診経験は、マニュアル上の対象である 40-64 歳男女・25-39 歳女性で 57.1% (949/1662 名) に留まり、一方、マニュアル上の対象でない 25-39 歳男性で 13.9% (47/338 名) に上った。男性よりも女性で年齢が高いほど多かった。受けようと考えたきっかけは勤務先、保険者、自治体からの案内が 39.6% と多かった。

表 3 に検診情報のタッチポイントについて示した。がん検診の案内状を受け取ったことがある者は、マニュアル上の対象である 40-64 歳男女・25-39 歳女性で 50.6% (841/1662 名) に留まり、送付元は自治体が多かった。一方、マニュアル上の対象でない 25-39 歳男性で 19.8% (67/338 名) に上り、送付元は勤務先、保険者が多かった。

検診情報を見聞きしたことがある者は全体の半数 (50.5%、1010/2000 名)、自ら調べたことがある者はさらにその半数 (26.6%、532/2000 名) 程度であった。男性よりも女性で年齢が高いほど多かった。

受診対象の自覚 (表 2) から 5 大がん検診の受診対象の自覚の正答率を算出し、表 4 に示した。性年齢別にみると、25-39 歳の 41.0% が推奨より多い (マニュアルで推奨されていないのに受診対象と認識している検診がある)、40-49 歳の 70.3%、50-64 歳の 60.1% が推奨より少ない (マニュアルで推奨されているのに受診対象と認識していない検診がある) という結果であった。部位別にみると、正答率はいずれも 5~6 割にとどまり、マニュアル上の対象であっても自覚していない者が多かった。検診情報の見聞きの有無で比較する

と、検診情報を見聞きしたことがある者のほうが、推奨より少ない者の割合が減り、全体として正答率が高かったが、推奨より多い者の割合が増えた。

表 5 にがん検診の態度、主観的規範、コントロール感、受診意図と検診情報の見聞きとの関係について、多重ロジスティック回帰モデルから得られた結果を示した。検診情報を見聞きしたことがある者のほうが態度、主観的規範、コントロール感が良好であり、受診意図が高いという結果であった。

なお、上記の分析について、勤務先の規模、医療保険の種類による相違を比較する検討もおこなったが、一貫性のある明らかな差異は認められなかった。

D. 考察

がん検診を“正しく受けてもらう”方策を探るため、「働く人の健康意識に関するアンケート調査」第 2 弾を行い、がん検診の受診対象の自覚、検診情報とのタッチポイントを調べ、検診情報の見聞きが受診意図に与える影響を検討した。

調査対象者のうち 40-64 歳男女・25-39 歳女性はマニュアル上の対象であるにも関わらず、49.4% ががん検診の案内状を受け取っていないと回答し、34.1% が受診対象と認識していなかった。勤務先、保険者、自治体からの案内が受診のきっかけに多いことを考えると、がん検診の案内状を対象者に確実に届けることが受診促進に重要である。

一方、25-39 歳男性はいずれのがん検診も推奨されていないが、35.8% が受診対象と認識し、13.9% は受診経験があった。19.8% ががん検診の案内状を受け取ったと回答しており、案内状をきっかけに受診した者が相当数いると推察される。がん検診は、実際には、がん以外の疾患 (胃潰瘍、肺炎、大腸ポリープなど) のスクリーニングにも流用されており、検査を行うこと自体を全面的に否定 (禁止) するのは難しいと思われる。ただ、本来あるべきがん検診について理解していることは重要であり、科学的根拠に基づく正しい知識の普及に取り組む必要がある。

がん検診を受けるかどうかの判断 (受診意図) は、計画的行動理論 [4] に従い、態度、主観的規範、コントロール感に影響される。検診情報を見聞きしたことがある者のほうが態度、主観的規範、コントロール感が良好であり、受診意図が高いという結果であった。がん検診の受診を“促す”には検診情報とのタッチポイントを増やす、がん検診の受診を“正しく受けてもらう”にはがん検診の案内状を推奨どおり送付することが望まれる。働

く人を含めた一般市民に向けてがん検診に関する情報発信を強化する一方、企業や保険者に向けて本来あるべきがん検診を促す啓発活動を根気よく継続していく必要がある。

E. 結論

25～64 歳有職者 2000 名を対象に、がん検診の受診対象の自覚、検診情報とのタッチポイントを調査した結果、がん検診を推奨されている 40-64 歳男女・25-39 歳女性の 3 人にひとりには自分が受診対象と認識していなかった。一方、がん検診を推奨されていない 25-39 歳男性の 3 人にひとりには自分が受診対象と誤認していた。働く人のがん検診を正しく受けてもらうには、働く人を含めた一般市民に向けてがん検診に関する情報発信を強化し、検診情報とのタッチポイントを増やす一方、企業や保険者に向けて本来あるべきがん検診を促す啓発活動を根気よく継続していく必要がある。

参考文献

1. 厚生労働省. がん検診.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>
(2025 年 12 月 1 日アクセス)
2. がん情報サービス. がん検診について.
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html
(2025 年 12 月 1 日アクセス)
3. 厚生労働省. 職域におけるがん検診に関するマニュアル.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/000020073>

[4.html](#)

(2025 年 12 月 1 日アクセス)

4. Icec Ajzen. Theory of planned behavior.
<https://people.umass.edu/aizen/index.html>
(2025 年 12 月 1 日アクセス)

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
1. Suka M, Shimazaki T, Yamauchi T, Yanagisawa H. Psychographic determinants of response to health promotion materials. MEDINFO 2025 (2025)
2. 須賀万智, 山内貴史, 柳澤裕之. がん検診の受診意図を高める働きかけとは～働く人の健康意識に関するアンケート調査. 第 84 回日本公衆衛生学会(2025)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1 回答者の基本属性

		N	
性	男/女	1000	/1000
年齢	平均 (SD)	44.9	(11.1)
婚姻	既婚	922	46%
	未婚/離別/死別	1078	54%
教育	中学校/高校	624	31%
	専門学校/高専/短大	428	21%
	大学/大学院	948	47%
職業	常勤、フルタイム	1495	75%
	非常勤、パートタイム	505	25%
年収	599 万円以下	1120	56%
	600 万円以上	880	44%
健康状態	治療中	608	30%
勤務先の規模	1-49 人	796	40%
	50-299	478	24%
	300+	726	36%
医療保険の種類	健康保険組合	805	40%
	協会けんぽ	596	30%
	国民健康保険	379	19%
	共済組合など	220	11%

表2 がん検診の自覚と経験

1) おなじ性年齢で一般的に受けた方が良いと言われているのはどれか (受診対象の自覚)

		全体	男性			女性			p
			25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	
N		2000	338	265	397	376	230	394	
受診対象の自覚	n	1217	121	135	277	196	171	317	<0.001
		60.9%	35.8%	50.9%	69.8%	52.1%	74.3%	80.5%	
胃がん検診	n	881	103	110	246	78	117	227	<0.001
		44.1%	30.5%	41.5%	62.0%	20.7%	50.9%	57.6%	
肺がん検診	n	676	78	89	175	51	95	188	<0.001
		33.8%	23.1%	33.6%	44.1%	13.6%	41.3%	47.7%	
大腸がん検診	n	844	80	103	230	69	119	243	<0.001
		42.2%	23.7%	38.9%	57.9%	18.4%	51.7%	61.7%	
乳がん検診	n	624	—	—	—	165	165	294	<0.001
		62.4%	—	—	—	43.9%	71.7%	74.6%	
子宮がん検診	n	590	—	—	—	179	152	259	<0.001
		59.0%	—	—	—	47.6%	66.1%	65.7%	
前立腺がん検診	n	263	55	58	150	—	—	—	<0.001
		26.3%	16.3%	21.9%	37.8%	—	—	—	
その他	n	2	0	0	1	1	0	0	0.672
		0.1%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	

2) これまでに受けたことがあるのはどれか (受診経験)

		全体	男性			女性			p
			25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	
N		2000	338	265	397	376	230	394	
受診経験	n	996	47	107	235	144	162	301	<0.001
		49.8%	13.9%	40.4%	59.2%	38.3%	70.4%	76.4%	
胃がん検診	n	723	35	95	215	53	106	219	<0.001
		36.2%	10.4%	35.8%	54.2%	14.1%	46.1%	55.6%	
肺がん検診	n	532	26	63	161	34	69	179	<0.001
		26.6%	7.7%	23.8%	40.6%	9.0%	30.0%	45.4%	
大腸がん検診	n	596	20	63	172	42	92	207	<0.001
		29.8%	5.9%	23.8%	43.3%	11.2%	40.0%	52.5%	
乳がん検診	n	481	—	—	—	83	137	261	<0.001
		48.1%	—	—	—	22.1%	59.6%	66.2%	
子宮がん検診	n	501	—	—	—	119	136	246	<0.001
		50.1%	—	—	—	31.6%	59.1%	62.4%	
前立腺がん検診	n	91	8	13	70	—	—	—	<0.001
		9.1%	2.4%	4.9%	17.6%	—	—	—	
その他	n	5	0	2	2	0	1	0	0.234
		0.3%	0.0%	0.8%	0.5%	0.0%	0.4%	0.0%	

3) (受診経験がある方のみ) 受けようと考えたきっかけはなにか

		全体	男性			女性		
			25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳
N		996	47	107	235	144	162	301
勤務先・保険者から案内が届いて	n	207	14	22	44	26	26	75
		20.8%	29.8%	20.6%	18.7%	18.1%	16.0%	24.9%
自治体から案内が届いて	n	187	3	9	38	25	39	73
		18.8%	6.4%	8.4%	16.2%	17.4%	24.1%	24.3%
新聞や雑誌を読んで	n	33	2	6	8	8	3	6
		3.3%	4.3%	5.6%	3.4%	5.6%	1.9%	2.0%
テレビやラジオの番組を見て	n	68	5	6	18	4	8	27
		6.8%	10.6%	5.6%	7.7%	2.8%	4.9%	9.0%
インターネットの情報を見て	n	41	4	8	7	11	6	5
		4.1%	8.5%	7.5%	3.0%	7.6%	3.7%	1.7%
家族や友人に勧められて	n	96	5	15	12	18	20	26
		9.6%	10.6%	14.0%	5.1%	12.5%	12.3%	8.6%
両親ががんになったことがある	n	57	2	4	18	7	13	13
		5.7%	4.3%	3.7%	7.7%	4.9%	8.0%	4.3%
身近でがんになった人がいた	n	47	2	7	12	6	7	13
		4.7%	4.3%	6.5%	5.1%	4.2%	4.3%	4.3%
その他	n	260	10	30	78	39	40	63
		26.1%	21.3%	28.0%	33.2%	27.1%	24.7%	20.9%

表3 検診情報とのタッチポイント

1) がん検診の案内状を受け取ったことがあるか

		全体	男性			女性			p
			25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	
N		2000	338	265	397	376	230	394	
ある	n	908	67	110	212	134	126	259	<0.001
		45.4%	19.8%	41.5%	53.4%	35.6%	54.8%	65.7%	
勤務先	n	240	35	35	46	36	26	62	0.122
		12.0%	10.4%	13.2%	11.6%	9.6%	11.3%	15.7%	
保険者	n	285	28	35	66	32	35	89	<0.001
		14.3%	8.3%	13.2%	16.6%	8.5%	15.2%	22.6%	
自治体	n	622	18	64	149	94	102	195	<0.001
		31.1%	5.3%	24.2%	37.5%	25.0%	44.3%	49.5%	
その他	n	2	1	0	0	0	1	0	0.379
		0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	

2) 検診情報を見聞きしたことがあるか（がん情報の見聞き）

		全体	男性			女性			p
			25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	
N		2000	338	265	397	376	230	394	
ある	n	1010	123	122	224	150	127	264	<0.001
		50.5%	36.4%	46.0%	56.4%	39.9%	55.2%	67.0%	
勤務先の情報誌	n	177	34	22	36	25	24	36	0.586
		8.9%	10.1%	8.3%	9.1%	6.6%	10.4%	9.1%	
保険者の情報誌	n	289	39	32	74	31	30	83	<0.001
		14.5%	11.5%	12.1%	18.6%	8.2%	13.0%	21.1%	
自治体の情報誌	n	506	36	49	102	79	74	166	<0.001
		25.3%	10.7%	18.5%	25.7%	21.0%	32.2%	42.1%	
新聞や雑誌	n	177	20	23	47	18	23	46	0.001
		8.9%	5.9%	8.7%	11.8%	4.8%	10.0%	11.7%	
テレビやラジオ	n	410	53	43	81	64	41	128	<0.001
		20.5%	15.7%	16.2%	20.4%	17.0%	17.8%	32.5%	
ウェブサイト	n	169	25	15	38	28	19	44	0.153
		8.5%	7.4%	5.7%	9.6%	7.4%	8.3%	11.2%	
SNS	n	73	17	8	7	21	8	12	0.060
		3.7%	5.0%	3.0%	1.8%	5.6%	3.5%	3.0%	
動画配信サービス	n	96	24	9	17	22	7	17	0.159
		4.8%	7.1%	3.4%	4.3%	5.9%	3.0%	4.3%	
その他	n	8	0	1	2	2	1	2	0.882
		0.4%	0.0%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%	

表4 5大がん検診の受診対象の自覚の正答率

1) 性年齢別

		全体	男性			女性		
			25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳	25-39 歳	40-49 歳	50-64 歳
N		2000	338	265	397	376	230	394
正答	n	703	221	67	154	19	80	162
		35.2%	65.4%	25.3%	38.8%	5.1%	34.8%	41.1%
推奨より多い	n	293	117	0	0	176	0	0
		14.7%	34.6%	0.0%	0.0%	46.8%	0.0%	0.0%
推奨より少ない	n	1020	0	198	243	197	150	232
		51.0%	0.0%	74.7%	61.2%	52.4%	65.2%	58.9%

2) 部位別・検診情報の見聞き別

		胃がん検診				肺がん検診				大腸がん検診			
		全体	見聞き なし	見聞き あり	p	全体	見聞き なし	見聞き あり	p	全体	見聞き なし	見聞き あり	p
N		2000	990	1010	<0.001	2000	990	1010	<0.001	2000	990	1010	<0.001
正答	n	1233	577	656		1132	537	595		1260	564	696	
		61.7%	58.3%	65.0%		56.6%	54.2%	58.9%		63.0%	57.0%	68.9%	
推奨より多い	n	181	46	135		129	32	97		149	41	108	
		9.1%	4.6%	13.4%		6.5%	3.2%	9.6%		7.5%	4.1%	10.7%	
推奨より少ない	n	586	367	219		739	421	318		591	385	206	
		29.3%	37.1%	21.7%		37.0%	42.5%	31.5%		29.6%	38.9%	20.4%	

		乳がん検診				子宮がん検診			
		全体	見聞き なし	見聞き あり	p	全体	見聞き なし	見聞き あり	p
N		1000	459	541	<0.001	1000	459	541	<0.001
正答	n	670	283	387		590	201	389	
		67.0%	61.7%	71.5%		59.0%	43.8%	71.9%	
推奨より多い	n	165	58	107		0	0	0	

		16.5%	12.6%	19.8%	0.0%	0.0%	0.0%
推奨より少ない	n	165	118	47	410	280	130
		16.5%	25.7%	8.7%	41.0%	61.0%	24.0%

表 5 がん検診の態度、主観的規範、コントロール感、受診意図と検診情報の見聞きとの関係

		がん情報の見聞き		態度		主観的規範		コントロール感		受診意図	
		OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI	OR	95%CI
性	男	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref
	女	1.81	1.38-2.38	2.32	1.73-3.12	2.37	1.79-3.13	1.77	1.34-2.34	1.97	1.34-2.89
婚姻	既婚	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref
	未婚/離別/死別	0.95	0.73-1.22	0.79	0.60-1.03	0.78	0.60-1.02	0.66	0.51-0.86	0.63	0.45-0.89
教育	中学/高校/専門学校/短大	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref
	大学/大学院	1.64	1.27-2.11	0.92	0.70-1.20	1.09	0.84-1.41	1.03	0.80-1.34	1.37	0.97-1.93
職業	常勤、フルタイム	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref
	非常勤、パートタイム	1.03	0.76-1.40	0.86	0.62-1.20	0.72	0.53-0.98	0.90	0.66-1.23	0.48	0.31-0.73
年収	599 万円以下	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref	1.00	ref
	600 万円以上	1.29	0.99-1.68	1.62	1.21-2.15	1.29	0.98-1.69	1.48	1.13-1.94	1.41	0.98-2.01
治療中		1.49	1.17-1.90	1.21	0.93-1.57	1.16	0.90-1.48	1.32	1.03-1.69	1.47	1.05-2.05
がん患者との接点		2.18	1.73-2.75	1.84	1.43-2.37	1.79	1.40-2.29	1.56	1.22-2.00	1.30	0.94-1.80
検診情報の見聞き		-		3.49	2.71-4.49	2.44	1.90-3.12	2.13	1.65-2.74	1.53	1.09-2.14
態度		-		-		-		-		9.35	6.41-13.62
主観的規範		-		-		-		-		2.64	1.89-3.68
コントロール感		-		-		-		-		6.54	4.60-9.29

OR：オッズ比 CI：信頼区間